

# 「<sup>お</sup>上山城」からのたより 錦秋・第78便

## 真田家ゆかりの地

（上田藩・沼田藩）

来年の大河ドラマは真田信繁（幸村）の生涯を描いた『真田丸』である。関ヶ原の戦の時、徳川秀忠が三万の軍勢を率いて上田城を攻撃した際、兄・信之は東軍（徳川方）、信繁は父・昌幸と共に豊臣家の御顧に報いるため西軍として奮戦し、遂に秀忠が西上するのを阻止した話は有名である。慶長十九年（一六一四）大坂冬の陣においては、

大坂城南天王寺口外堀の外に城塁を築き（通称真田丸）、徳川軍を悩ませ、翌年の夏の陣では本陣に迫って家康を窮地に追い込むも最期は壮絶な死を遂げたという。信繁の豪傑らしい武勇伝は尽きず、その生き様は魅力的である。

信繁の父・昌幸は武田勝頼に任せ、信濃上田を本拠地として上野沼田にまで勢力を拡大し沼田城を得て、天正十一年（一五八三）には上田城を



「覚」森久俊満氏寄贈

築城した。江戸時代初期、信繁の兄・信之は上田藩主として領内を治めていたが、元和八年（一六二二）、突然、隣の松代藩に転封を命ぜられ、幕末までこの地を真田家が治めることとなる。

実は真田家ゆかりの地である上田（長野）・沼田（群馬）は、いずれも上山藩を治めた土岐家と藤井松平家にも関わりがあるとところである。上田は真田家移封後、仙石家が入部、宝永三年（一七〇六）には松平伊賀守忠周が入部し、以後幕末まで松平家が治めた。この松平家は当上山藩・藤井松平家の分家で、父・忠晴が松平忠国の弟、忠周は甥にあたる。写真の資料は松平信通時代の親族についての記録で、伯父、伯母をはじめとした歴々が記されている。沼田は土岐家が上山藩から駿河田中を経て、寛保二年（一七四二）に転封となった地で、頼行の孫頼稔の代より以降幕末までこの地を治めている。

何故、真田家が突然松代藩に移封になったのかははっきりしないが、大名統制の一つであったと思われる。真田家と上山藩の直接的な関係を示す資料は現時点で見当たらないものの、上山藩と上田藩と沼田藩、土地で繋がる不思議な縁があるようだ。

公益財団法人上山城郷土資料館

学芸員 大場 浩子

【常設展示室より】この資料は2階第3展示室で公開しています。